横浜市立 いずみ野小学校 令和5年度

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「自分が好き、友だちが好き、学校が好き、このまちが好き」

- ~心豊かに学び合い、ともによりよく生きようとする子ども~ 共に学び合い、身近なことから問題を見付け、最後まで粘り強くやり遂げる子どもを育てます。(知)
- 自分のよさに気付き、相手のよさや違いを認めて、心豊かに行動できる子どもを育てます。(徳)○ 食育を通して、自分の体や成長に関心をもち、心身ともにたくましく生きる子どもを育てます。(体)

- いずみ野のまちや横浜を愛し、人々や自然から学び、よりよい社会をつくる子どもを育てます。(公) 横浜や日本の伝統や文化を知り、世界や地球環境に目を向け、様々な人々と共生しながら自分たちの未来を拓く子どもを育てます。(開)

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

具体化した資質・能力

〈持続可能な社会の創造に貢献する力〉 〈協働して課題解決するカ〉 〈思いや考えを表現する力〉

・主体的・積極的に物事や人と関わろうとする姿勢 ・地域を愛する気持ち ・思いや考えを表現する力 ・自らの安全な生活・健康を保持増進する態度

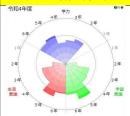
中期取組目標

- ○子ども一人ひとりを大切にし、地域・家庭・学校が連携、協働しながら、まちとともに歩む学校にします。
- ・学習の楽しさを実感できる授業作りを推進し、子どもの発見や表現を大切にしながら学力を向上させます
- ・「人」とのつながりを大切にし、地域の財を積極的に取り入れた豊かな体験を通して、まちを愛する心を育てます。
- ・一人ひとりが自己有用感をもち、安心して生活できる学校作りを進めます。
- ・健康な心身をつくるための生活習慣が形成できるようにします。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
	①「主体的・対話的で深い学びを通して目指す姿(具体的な姿)」をはっきりさせて、日々の授業づくりに取り組んでいく。②阿久和小の職員と協力して、R6年度のカリキュラム作成を行う。
担当 重点推進	

学力向上に関わる本校の状況



- 1) 学力に関わる児童生徒の実態
- 横浜市の学習状況調査の結果を見ると、中学年
- で、「知職・技能」「思考・判断・表現」の観点 で、市の平均から、6ポイント程度低い状況に
- なっている。中学年での学習意欲が低い状況から、
- 意欲が学力に影響していると考えられる。
- (2) これまでの学校の取組状況 希望のあった児童に対して国語については、取

り出しの授業、算数については、少人数制の学習 支援やを行っていた。また、重点研で、算数科の 授業を行い、児童が交流を通して学びを深めたり、 ユニバーサル化の視点の取組を全校で考えたりし to.

今年度の目標

互いの考えを理解する力 感じたことを表現する力 考えを出し合って新提案する力

目標を実現するための具体的行動プラン

- ①「主体的・対話的で深い学びを通して目指す姿」とはどのような姿なのかを考え、全職員で授業を検証し、年度末に成果と課題をまとめる。 今年度はカリネュラムの作成ご重点をおき、年に一度は、全教諭が授業を行い、「課題把握」 可干房(はパパキコフムの作成に無無なるだ。下に一般は、主教側が実象で打い、は理想に増了 「自力解決」「中国思考」「難以多」それぞれのよりよい姿を考えていく。学習後の児童の姿を具 体的に思い構念ながら、児童が交流して学びを深めたかる授業づくりを行う。 ②個々の発達段階や理解度に応じた学習支援や具体的な手立て、授業や教室環境のユニ パーサルデザイン化の視点を入れた取り組みを行う。
- ③双方の児童の実態を伝え合い、どちらの学校出身の児童も安心して学習に臨めるようなカリ
- ④各学年が中心となり、「育成する資質・能力の定着を図れるようなスキルタイム」の在り方を 考え、実践し、年度末に評価する。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野 ①異学年同士のつながりが深まるよう、たてわり活動、ペア学年交流を充実させる。②地域と連携した生産活動を通して、出会った人とのつながりについて考えたり発信したりする学習を行う。 豊かな心 担当 特活部, 道徳部

豊かな心に関わる本校の状況



(1) 児童生徒の実態

横浜市の学習状況調査の結果を見ると、市の平均 から、校外生活については、高学年になるほど高く なる傾向があった。

(2) これまでの学校の取組状況

①道徳、「なかよしタイム」や生産活動での異学 年交流、地域と連携した生産活動を通して、「自分 や相手の良さに気付くことができる。|ような活動

今年度の目標

他者を理解する態度 自己を理解する姿勢 感じたことを表現するカ 自己肯定感

目標を実現するための具体的行動プラン

①なかよしタイムを年に5回以上行い、なかよし班の仲を深める。生産活動の中に なかよし班での取組を取り入れる。(苗植え、収穫など) ②生産活動に関わってくださる方々を総合的な学習の時間や生活科で扱い、児童 が積極的に関わったり、地域の方の思いに迫ったりできるような活動を行う。地域 の方との関わりやそこからの学びを収穫祭で発信したり、授業でのふり返りで児童 が話し合ったりする。

健やかな体の育成プラン

〕自己の生活習慣の改善ができるように家庭と連携を深めていく。そのため、情報発信を意図的、計画的に行う。また、実態に合った目標設 使やかな体 定をしていき、自分事としてふり返りを定期的に行うようにする。 ②体育学習では、主体的に課題発見や解決ができる子どもの育成を目指し、楽しさや学び方を習得できるような授業の充実を図る。 担当 体育部、保健部

健やかな体に関わる本校の状況



○全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、「運動が大切な ものか」という質問に対して、野女と大いご時間度の発量が大 ののでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、 の「運動が学わか、から質問では、1元は、特定・からが考した。 帯大力が195%という一方で、女子は80%にとどまり、全国・ 市場を下囲っている。 の「どうすれば今よりも体育の従業が美したの」という質問 に対して、「重要のボイントからかいできることが唱えるとこと。

、人と比べられずに運動を行うことを求めている児童が多い

(2)これまでの学校の取組状況 ○体育科では、楽しさや学び方を習得できるような授業の充実 を図ってきた。 〇横浜市体力・運動能力調査の結果を保護者と共有してきた。 〇「自己の生活習慣の改善ができるような」「実態に合った」活動(はみがきカレンダー等)を実践してきた。

今年度の目標

自らの安全な生活・健康を保持増進する態度 心身の発育・発達への理解 問題解決のために仲間と試行錯誤しながら協働するカ

目標を実現するための具体的行動プラン

①体育部が中心となり、新体カテストの結果等を保護者と共有する。また、保健部 が中心となり、「自己の生活習慣の改善ができるような」「実態に合った」活動を年 に2個実践し、面談等で話題にする。例えば、「はみがきカレンダー」「コロナ対策 予防をしよう」などを実施し、ふり返る。

② 体育部が中心となり、各学年が「楽しさや学び方を習得できるような授業の充 実を図る」ために、資料を提示したり、実技研修を行ったりし、それを生かして各学 年が授業をし、年度末に評価する。